

森 将彦

Mori Masahiko



真庭木材青年協議会の
メンバー



にこやかに話す
森さん



森 将彦さん(久世)

真庭木材青年協議会(会員数24人)の51期会長。株式会社勝山木材市場に勤務する。休日は子どもとゲームをしたり外で遊んだりするのが好き。田んぼや畑仕事もよくしており、自覚はないが、周りの人から好きなんだろと言われている。

真

MANIWA BITO

庭人

子どもが笑顔になってくれれば

市内の木材関連企業の青・壮年で組織される真庭木材青年協議会(木青)。森将彦さんは、今期の会長を務めています。「木青はもともと、各製材所の若い人たちで情報交換や意見交換をするために集まった組合なんです」とできた経緯を話します。木青では、月に1回の会議のほか、1月の新春木材マラソン大会や年に3回の特別記念市などを実施。イベントなどで木工教室やキックターゲットを出展することもあり、「子どもたちに大人気なんです。やっぱり、子どもが喜んで笑顔になれば、木のぬくもりを感じてくれれば、それでいいんじゃないかなと思います」と話します。

木の良さを知って

高校卒業後に勝山木材市場に就職し、木材産業に営業として携わり始めた森さん。木青に入会したのは、2014年のこと。それまで入っていた同じ職場の先輩が会の定年45歳を迎え、入れ替わるように入会したそうです。「そのときは難しく考えず、気軽に入りましたね」と笑います。

森さんたち木青が現在準備中なのは、5月26日に県内で行われる全国植樹祭。サテライト会場となる蒜山では、木青としてブースを出展します。「いろんな人に来てほしいです。遊びに来たついでにでも立ち寄って、木に触れ合って、木の良さを知って興味を持ってくれたらいいですね」と話します。

木青のこれから

昨年創立50周年を迎えた木青。これからについて森さんは、「50年、100年と続いていくってこれだけ若い人材が真庭で木材に携わってくれたら良いことだと思えます」と話します。

これからも木青には、真庭の木材産業の未来を担う若者たちが集うことでしょ。

